

様式(9)

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 7 号	氏 名	佐 藤 美 樹
審査委員	主 査 田 村 綾 子 副 査 葉 久 真 理 副 査 近 藤 和 也		

題 目

Measuring quality of sleep and autonomic nervous function in healthy Japanese women
 (健康な日本人女性の睡眠の質と自律神経機能の測定)

著 者

Miki Sato, Yuko Yasuhara, Tetsuya Tanioka, Yukie Iwasa, Masafumi Miyake, Toshiyuki Yasui, Masahito Tomotake, Haruo Kobayashi, Rozzano C. Locsin : Neuropsychiatric Disease and Treatment, Volume 10, 89-96, 2014 に発表済

要 旨

客観的に睡眠の質と量を測定するためには睡眠ポリソムノグラフィが有効であるが、大掛かりな測定機器で特別な検査室内での測定に限られる。本研究の目的は、看護研究の領域における睡眠アセスメントの一般的測定方法となりつつある睡眠測定機器を用いて、睡眠覚醒リズム・睡眠の質と量について評価し、看護領域での有用で簡便な日常生活における活動・睡眠評価法を確立の一助とすることである。

研究方法は、睡眠・覚醒リズムおよび活動量評価 (Activity Counts:AC)をアクチグラフで、自律神経活動を心拍変動解析 (heart rate variability:HRV)で、主観的睡眠評価を質問紙(Pittsburgh sleep quality index :PSQI 日本語版)を用いて、健常な日本人女性における日常の生活環境において調査した。その結果、AC と HRV の副交感神経活動(high frequency:HF) には有意な負の相関を、AC と交感神経活動(low frequency/ high frequency: LF/HF)には有意な正の相関関係を認めた。次に、PSQI で睡眠の質の良好・不良の 2 群に分けて解析した結果、良好群が主観的睡眠時間は有意に長く、AC と HF の相関係数および AC と LF/HF の相関係数においても有意に良好群の相関関係が強かった。一方、不良群においては、AC と HF の相関係数と AC と LF/HF の相関係数が低値であった。

以上のことより、アクチグラフ・HRV・PSQI を組み合わせた検査を総合的に用いることによって、通常の日常生活の中で、睡眠覚醒リズムや睡眠量の評価ができることを示した。また、睡眠障害の治療の際にもこれらの結果を提示することで、睡眠と活動に関する日常生活支援に活用できる可能性を示唆され、医療及び看護の進展に貢献するものであると考える。大掛かりな測定機器を用いず簡便な睡眠測定用具を複数用いて、睡眠覚醒リズム・睡眠の質について評価することで、日常生活における活動・睡眠評価法を確立する一助とした本研究成果は、博士の学位授与に値すると判定した。